

研究課題：タイムスタディ等の定量的な検討を踏まえたがん医療における専門スタッフの  
効果的な配置や支援のあり方に関する研究

課題番号：H19-がん臨床-一般-009

主任研究者：大阪大学大学院医学系研究科 教授

大野ゆう子

### 1. 本年度の研究成果

がん医療における専門スタッフの業務内容、配置については、組織図的把握とともにタイムスタディ等定量的調査による業務時間、内容把握が基礎資料となる。本年度は相談業務、院内がん登録、地域連携等がん拠点病院に期待される機能についてタイムスタディ等定量的測定を行うことを念頭に、がん診療連携拠点病院、がん専門病院、特定部位専門病院、総合病院、患者支援・地域連携支援団体など40以上の施設・部門・組織を見学、インタビューし、一部許可された範囲で観察調査を実施し、各機能の担当部署、病院内の配置、業務内容、担当職員人数、専門性等の検討を行った。さらにタイムスタディ等定量的調査に協力いただける施設の検討を行った。

相談業務・地域連携等機能については、事務系職員と医療・福祉系職員が分担したり、部署を特定せず外来看護師などが随時対応する場合などがあり、タイムスタディ実施において部署、室、以外に担当者という視点での調査が必要なことが明らかになった。院内がん登録については登録士を採用した施設もあるが、主治医に登録を任せている施設も多く、登録精度には施設間格差がみられた。入力作業時間については医師の退院時記録の精密さや登録士のキャリアによってかなり幅がみられた。事前にケースファインディングしてある場合、登録士では通常15分以内で1例入力が終了していたが、退院時記録に未記載項目が多い場合やカルテを読むことに不慣れな登録士の場合は40分程度費やしていた。

専門スタッフの効果的配置、支援方法の検討のためには業務内容の評価方法検討が必須である。本年度は、がん拠点病院の受療圏・受療者カバー割合、生存率をもとにした地域がん医療水準への貢献、がん登録の悉皆性・登録精度についてがん登録データをもとに有効性を検討した。患者支援・相談業務・地域連携等機能については担当者のインタビューにより担当者間の質保証の方法を調査した。

### 2. 前年までの研究成果

本年度は初年度のため無

### 3. 研究成果の意義及び今後の発展性

今回の調査結果から多くの施設で患者支援・相談業務・地域連携・がん登録等の業務を複数部門、多職種職員が協同実施していることが明らかになった。したがって専門スタッフの業務、配置については、部門、職名を基盤にした調査・比較検討ではなく、実際の機

能・業務内容を主体として業務実態を整理し直した上で実態調査し、比較検討する必要がある。本研究では移設可能な複数部門、担当者に対するタイムスタディ等定量的調査法を検討しており、機能・業務内容を主体として明示化する方法論も要求工学を基に検討中である。両者により業務量と業務内容とを併せ定量的に把握する方法論を構築、提案できる。

がん拠点病院の、地域における診療の比重や治療レベル向上への貢献、登録の悉皆性を検討する手法はいずれも世界的に新しい提案である。今後院内がん登録、地域がん登録の充実に伴い、がん医療の評価に本検討手法は大きく貢献できる。専門スタッフの配置と支援とを総合して検討することにより効果的ながん医療提供のあり方が提案できる。

#### 4. 倫理面への配慮

本研究における解析対象内容には個人情報に含まれないが、タイムスタディ等の調査対象業務は患者個人情報と密接に関わる。そのためタイムスタディ等を念頭において施設に伺う際には、事前に担当者に資料等により説明し業務運営を阻害しないことを第一とした。調査を行う施設選択においては目的・実施箇所・方法に関して関係者に対し資料をもとに説明した後、部門とともに現場専門スタッフの理解を得られたところとした。

#### 5. 発表論文

1. Yuri Ito, Yuko Ohno, et al. Cancer Survival Trends In Osaka, Japan: the Influence of Age and Stage at Diagnosis. *Jpn J Clin Oncol*, 37 : 452-458, 2007

#### 6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属施設及び現在の専門（研究実施場所）	⑤所属施設における職名
大野ゆう子	総括	東京大学大学院・昭和 60 年卒・医学博士・医学意思決定・計量医学	大阪大学大学院医学系研究科・数理保健学	教授
門田守人	医療機関調査,分析	大阪大学・昭和 45 年卒・医学博士・消化器外科学・腫瘍外科学	大阪大学大学院医学系研究科・消化器外科学	副学長
松村泰志	医療機関調査,分析	大阪大学・昭和 60 年卒・医学博士・循環器病学・医療情報学	大阪大学大学院医学系研究科・医療情報学	准教授
横内光子	モデル医療機関調査,分析	大阪大学大学院・平成 18 年卒・看護学博士・数理保健学	名古屋大学大学院医学系研究科・臨床看護学	准教授
鈴木珠水	地域医療調査,分析	東京医科歯科大学大学院・平成 16 年卒・看護学修士・保健衛生学	群馬パース大学保健科学部・成人看護学	講師
清水佐知子	医療機関調査,分析	神戸大学大学院・平成 16 年卒・経済学修士・ヘルスサービスリサーチ	大阪大学大学院医学系研究科・数理保健学	助教